

社団法人 埼玉私保連



広報

No.116

H25. 1. 31

発行



「スリップストリームは
いただいた！」

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

研集会報告

演題：「描画テストから見る子どもの心」

～完璧な親なんていない～

期日：平成24年11月12日（月）

講師：三沢直子先生

〈NPO法人コミュニティ・カウンセリング・センター理事長 文学博士 臨床心理士〉

今、家庭の子育て力が落ちてきている。ネット中毒の母親が増加している。体だけそこ
にあり、頭はネットのなかにある。子ども
というお母さんを見ると、片手に携帯、ス
マホをもちながら子どもと会話している。
心はネットの中で適度な相槌のみ。それを
赤ちゃんからやっていたらどうなるか。発
達障害の問題が増えていたらどうか。思
う。1/3はそうだとされているが、当然だと思
の刺激を受けながら育てる保育園は貴重な
場所である、7年描画テストをとってつ
くづく感じた。働く母の方が、色んな意味
で安全ということである。色んな人に関わ
り育つことの方が安全である。ただし、働
き過ぎというのはまた問題である。だが本

当に3歳までは母が見ることがいいか？と
いうことはもう一度考えた方がよい。親だ
けが3歳まで見ようとすると、親の偏りや
問題が直接子どもに影響してしまう。完璧
主義のお母さん、放任するお母さんなど、
バランスの良いお母さんが少なくなつた。
それが直接子どもに影響してしまう。今で
は、問題は世代間連鎖どころか、問題があ
る家庭ほど閉じられてしまひ、問題の拡大
再生産が起きてしまつているとさえいえる。
子どもに密接に関わる他の大人がいな
い。母に見捨てられたら行き場が無くなると思
い、子どもは母の意向を先取りして行動す
るようになってしまふ。

今、母親自身が孤独である。子育て中は、
陸の孤島に置き去りにされたみたいだとさ
え感じた。いったん家庭に入ると、また社
会に出ることが難しい。内向的な母だと、
友達がいなひ。母のひきこもり子どもが
巻き込まれてしまへば、その子どもの社会
性が育つはずが無い。その中で引きこもり
が100万人と言われているが、実際には
もっと多いだろう。新米ママが先輩ママか
らの助言が得られない。井戸端会議と言
うのは本当にあったことで、リアルタイムで
毎日助言を得られ、そこで親として成長す
ることができた。今その助言もなく、子育
てをしたこともないような学者の書いた本
を読んで子育てしている。子どもがかわい
くない、どうしつけてよいかわからない相
談が増えた。自らも両親との葛藤を抱える
ようになる。自分の親のようになりたいと
思えない人が増えた。明治大正時代に聞
く。今はほとんど手が上がらない。あんな
に口うるさく言う親のようになりたくない
と思つていても、実際に自分を育ててくれ

た親としてのモデルは一つなので、無意識
のうちと同じような表情、言い方で怒つて
いる。親のようになりたくないと言う人は、
かなり意識をしないと良い親になることが
できなくなつてしまふ。

自己否定的、他者否定的な人が増えてい
る。非現実的な完全主義の親が多い。子ど
もに對して、あなたはあれが足りない、こ
れが足りない、減点主義で見えてしまふ。
減点主義で育てられると、その人は自分も
相手も減点主義で見られるようになってしま
う。
ある時までは、家庭内離婚が多かつた。
実際には関係が壊れていても、形だけは保
つていた。90年を過ぎる頃からは、離婚に
至るまでが早くなつた。今では3件に1件
アメリカの2件に1件まではいつていない
が、それでも母子家庭の増加という状況は
増加していつているという事実がある。精
神的に問題を抱えている母親。専門のクリ
ニックに通つている人が各園に数人はいる
のではないだろうか。カウンセリングに來
られる人というのには、「自分の問題を自覚
し、それを変えたいと思ひ、そして変わる
ことができる」という可能性を信じている
のである。このうちのどの条件が欠けても
相談には來ない。人のせいにして相手が悪
いと思つていれば自分の問題とは思わな
い。相談に來ることはない。たとえ問題を
感じていても、それを変えたいと思わな
かったり、いつか誰かが何とかしてくれ
るかと考えていれば、それもまた相談には
來ない。変えたいとは思ひが、人の性格な
ど変わるものでもないと思ひてどうせ無理
と思つている人も相談には來ない。病院の
相談室で相談を受けていた時には、一部の
深刻な問題を抱えている人が來ると思つて
いたが、地域に出ていくと、病院に來てく
れていた人達は、むしろまだ質のいい人達

だということがわかった。世の中には、人のせいにして、何とかしてくれと依存的だったり、諦めている人がこんなにも多いのかということがわかった。治療にはとも時間がかかる。思春期から治療しても7、10年かかるようなこともある。1人を治しても、その間に1,000人の問題を抱えた人が出ているのではないかとさえ感じるようになった。そこで、これは治療以前に予防をしなければならぬと感じるようになった。

カウンセリングを受けること以前に、まず親が親の仕方を知らない。そこで親教育プログラムの普及を始めた。これには個人でなくグループで行うことが大切で、自分の親のやり方しか知らない人は、他のやり方は間違いだと考えてしまったりする。それができないと自分は大めだと思ひ、空回りしてしまう。そうではなく、色々な人と関わることで、様々な方法があることを知り、考え方に柔軟性が出たり、困った時には人の意見を聞いてみて助けてもらおうという手段をとることができるようになっていく。指導ではなく、体験学習としてすすめていくことが大切である。お母さんたちに言葉で「子どもをかわいがって。ありのまま受けとめて。抱きしめてあげて」と話したとしても、お母さん自身に抱きしめられた体験が無い人は、どうやって抱きしめられたのかわからない。抱きしめようとすると体が硬直してしまうと言うことさえある。「かわいがって」と言われても、かわいがられた経験が無いお母さんも沢山いる。ありのままを受け止めてもらったことが無いお母さんには、「受容が大切」といくら言葉で説明されたところで伝わることはない。個人としてカウンセリングをし、個人を治療していくよりも、親と親、地域を結び

付けることが重要である。子どもが人と関わりながら育つような環境を作るためには、まず母親自身が人と関わるような環境を作らなければならぬ。かつての井戸端会議のように親同士が助け合い、情報交換するような場所が求められている。そこでカナダの親支援プログラム、「完璧な親なんていない」ということの普及に携わり始めることになった。(NP (Nobody's Perfect) プログラムで初めに「初めから一人前の親などいません。みんな、まわりからの助けを得ながら親になっていくのです」と書かれています。人間はみんな、欠点を持っています。完璧な人間などどこにもいません。完璧な親や、完璧な子どもなど、存在しないのです。ですから大事なものは、可能な限りベストを尽くすことです。そして、必要な時には周りから助けを借りることです。親はすでに持っている子育てのスキルを高める。お互いにアイデアを出し合って助け合う。自分の能力を知り、自信を高める。自分だけが駄目だと思ふ親も多い。みんな同じだと知る。自分の何気ない一言が、他の親の役にたつ。そのことで、自分もまんざらでないと思ひ自信を取り戻す。他の親と知り合い、楽しむ。楽しくできる工夫がされている。楽しく学ぼううちに、いつの間にか他の親と助け合えるという力がついてくる。孤立しているお母さんが友達を得るための初めのステップとしてこのNPプログラムを受けてもらうという意味が大きい。「NPプログラムの特徴」は①参加者中心である。指導型でなく、参加者のニーズに従って行う。主催者がテーマを決めて話すのではなく、1回目に参加者に話を聞き、今話し合いたいテーマをだしてもらおう。そのテーマにそってプログラム進行が決まっていく。②価値観の尊重。価値観の押しつ

けをしない。聞かれたことに答えなければと思ったことが、支援者の価値観に基づくものであることもある。子育てに絶対はない。子ども、親の環境など様々である。それを支援者は自らの価値観で言っていたりする。そのように押しつけをしないこと。③体験を通して学ぶ、体験学習サイクルが柱になる。お母さんが日々体験していることは沢山ある。子どもが大きくなるにつれて、その時々の問題が起こる。問題が大きいかどうかはパニックになり、きちんと向き合うことのできないままに問題を流してしまふ。そのためにまた問題が起きた時に適当に流すことが繰り返されるといふことが起きてしまふ。そうではなく、ひとつひとつ体験、問題をしっかりと受け止めて、認識する。するとなぜそのような問題が起きたのかという原因が見えてくる。原因がわかればそれに向けてどうしたらよいかということを考えることができるようになる。このようなことの積み重ねをしていくうちに、問題に対する考え方のステップ、困った時には人に聞くといふ解決の方法を身につけていく事が出来るようになる。そうすると、このNPプログラムが終了してからも、そこでできた仲間が継続的に集まって仲間となつていくことが多い。今乳幼児を対象だが、このプログラムは小学生保護者、障害児保護者、介護中の人、子育て支援者に対してなど、様々な場面で使えるのではないか。アフリカのことわざにこのようなものがある。「子ども一人育てるには村中の人が必要」ずっと子育てで相談を受けていて思うのがこの言葉である。現代においては、保育園がこの環境に最も近いだろう。今の子ども問題のすべてはこの環境をいかに子どもに提供できるかと言ふことがあるのではないだろうか。

施設訪問こんにちは

訪問先 (三郷市)

三郷ひだまり保育園

園長 多田 郁子先生

平成二十四年八月、つくばエクスプレスと外環道の高架が交わる住宅地に産声を上げた三郷ひだまり保育園(七十一名定員)都内まで二〇分ほど、大型マンションが林立する三郷市、最寄り駅の三郷中央駅からは徒歩十分という地の利の良さ、何よりゆとりが感じられる平屋建ての園舎と広い園庭はとても魅力的でした。八月の開園にもかかわらず、転園者も含め、ほぼ100%の入所となっているそうです。



● エントランスは交流の場

玄関を入ると、エントランスホールがあります。ここは、子ども・保護者・保育者の交流スペース、早朝保育の受け入れと延長保育の場となっています。こどもの健康チェックノートが常に置いてあり、登園時に記入してもらっています。同じ場所に掲示板もあり、各担任が今日の保育内容やこどもの様子を知らせていきます。この掲示板は、お迎えに来た保護者の方や翌朝、送ってこられた祖父母の方々の密かな楽しみとなっています。絵本コーナーも設けられており、各クラスのことどもたちのお気に入り絵本が紹介されています。「こんな絵本に興味がありました。」「こんな絵本に興味があるのですよ」と保護者の方へのメッセージが込められています。他に、園長先生が耳にした「こどものつぶやき」「ほけん便り」「クラス便り」等様々な形で、保育園のことを発信していらっしゃる便りがありました。すべて手書きで整えられたお便りには、園長先生をはじめとする保育者の皆さんの温かなお人柄が滲み出ていました。

● 近所力で幸せ2倍

保育園の西側のお宅には大きな樺の木、芽吹きや落ち葉を楽しむこともでき、夏は木陰を提供してくれそうです。絶好の借景です。

近所の方々とは大の仲良しです。皆さん、お孫さんを愛おしくむようにこどもたちと関ってくださっています。保育園の行事を楽しみにしていらして、避難訓練にも必ず参加してください。そうなんです。先日のハロウィンでは、6件ほどのお宅にお菓子とスタンプを置かせていただき、こどもたちとスタンプラリーを行ったとお聞きしました。また、折り紙のコマやサンタさん、お手玉など手作りの品を届けてくださるそうです。

多田園長先生の少しでも保育園のことを知って欲しいという願いから、保護者向けの3か月行事予定表をご近所宅にも配付してきました。楽しいことは大勢で楽しむほうがより楽しいのです。関わることでこどもたちも近所の方々も笑顔になり、幸せは2倍になりました。まだまだご近所付き合いは始まったばかりですが、素敵なご近所力に支えられて、こどもたちはますますにスクスクと育つこと間違いなしと実感しました。

● 見て・聞いて・意識する

(異文化交流)

奥へと進むとホールの手前は、各クラスの季節の制作が飾られ、クリスマスモード全開でした。



ホールには、スタンプ遊びの模様入り画用紙のクリスマスツリーが、お散歩で拾ってきたどんぐりで作ったオーナメントで飾られていました。

異文化交流にも力を注いでいらっしゃるようです。この日は、月に2回の異文化交流デーでした。年齢ごとに挨拶を交わしたり、音楽に合わせてうたったり体を動かしたり、カードを使った遊び等、クラス毎に二十分ほど、楽しそうに交流をしていました。三〜五歳児では、ポップアップ式クリスマスカードの制作もあり、外国の言葉に「目で見て、耳で聞き、体で意識する」そんな実践が行われていました。異文化交流は、保護者の方々からの要望もあり高い評価を受けているそうです。未来を創るこどもたちに、限りない可能性を見出すべく、成

長を願う心を感じました。

●ひだまりバイキング

(異年齢児交流)

ホールでは、来週行われるクリスマス会の練習が行われていました。

三、五歳児の保育室は、一体となっておりエリアで分けられています。クラス別保育を軸に保育の展開により形態を変化させ行う異年齢児交流は、こどもたちが互いに刺激し合い、育ちあう場となっていました。

給食室から煮炊きする匂いが漂う頃、ホールはランチルームに変身します。置かれた机の上には手作りネームプレートやランチマットが並び準備完了。一番にやって来たのは二歳児さんでした。はじめ、二歳児は別に食事をしていたのですが、なかなか落ち着かず試行錯誤を繰り返して



返していました。思い切って三、五歳児の食事と一緒にしてみること。すると、見様見真似でお兄さんやお姉さんのように上手に食事を運び食べられるようになってきたそうです。

年に四回、季節のひだまりバイキングを設定し、時季の食材をふんだんに使ったお料理を二、五歳児がホールでいただきます。ちなみに秋のメニューは、きのこのソテー・里芋の煮っ転がし・りんご・柿・干しいも・パン二種(パプリカ・ウインナー)だったとか。お料理は、アルミのカップに小分けし取りやすいように、衛生面でも工夫をしたそうです。

保育室の仕切りは最小限、扉は硝子戸となっており、太陽の光が入る明るい空間となっていました。庭に面して幅広の縁側が続き、天気の良い日は庭で思い切り体を動かし遊ぶことができます。

遊びも食事も生活のことは「真似て覚えることが基本」環境を整え、様々な人と関わりをもち、コミュニケーション力を育むことが何より大切なのです。

●公開保育とはぐくみの会

保育・食育・子育て

自分の保育を振り返る機会となる公開保育を年に二回行っています。この日に限り、保育者の勉強のため、保護者の方にも協力をいただいています。公開保育前後は、緊張の連続となるでしょうが、保育を評価しても

らい、保育者としての深い気付きを得られるチャンスをいただけることをとても羨ましく思いました。

子育て、保育は「食」からという信念をお持ちの多田園長先生は、周囲の園長・栄養士・調理師の方々と「はぐくみの会」を立ち上げました。第一回目は、各園の食育実践報告とグループワーク「クリスマスマスの献立作成」、これはすぐに役立つ企画として好評を得たそうです。次回は調理実習を含め、構想中と伺いました。まだ、五、六園の方々と女子栄養大学の栄養士志望の学生たちの輪ですが、今後大きな輪に広がっていくことでしょう。

●巻き込む力で円満

年の瀬、押し迫っての訪問でしたが、園舎内はクリーンで暖かです。「暖房は？」と伺った



ところ、「県内初の地中熱暖房です。」との答えが返ってきました。エコでクリーンな地中熱暖房、体温調節が未発達な〇・一歳児の部屋はエアコンを併用していました。

何事も挑戦、こどもの育ちを守るためには妥協しない姿勢が随所に感じられ、職員やご近所の方々をも巻き込んで、前へ進む力強さを感じました。

平成二十五年四月、朝霞市に二番目の保育園の開園を控えていらっしゃるようです。

殊の外、保育一筋に情熱を注いでいらした多田園長先生のこともたちに対する思いがたくさん詰まった素敵な保育園でした。お忙しい中、丁寧にお話をいただきました。感謝申し上げます。貴法人並びに保育園の益々のご発展をお祈り申し上げます。

平成24年度 全国私立保育園連盟 保育功労賞

受賞おめでとうございます

第二くるみ保育園 園長 伊落 たつ子



第55回私立保育園研究大会が三重で開催され、若輩の私が「保育功労賞」をいただくことになりました。保育所の勤務年数だけは長くても、埼玉私保連の役員になってまだ数年しか経っていない私がこのような賞を頂いてよいのか悩みましたが、有り難くお受けすることにしました。

私が保育の仕事に入った昭和44年頃は、高度経済成長期のまっただ中で保育所が足りず、「ポストの数ほど保育所を」と運動がおこり、全国に公立保育所や民間保育所が次々に作られました。

ここ10数年、保育所に入りたくても入れない子どもが増え続け、国は待機児童解消を理由に「子ども・子育て新システム」の導入を進めてきました。この研究大会の中でも厚労省から新システムの説明がされました。しかし、全国の多くの反対の声の前では、説得力のない説明になったのです。

その後3党合意によって修正されて「子ども・子育て支援法」は成立し、保育の分野も個人給付のしくみへと舵が切られることになりました。保育所については児童福祉法24条で義務づけられた市町村の保育実施義務が残りました。今後とも、すべての子どもたちの健全な発達が保障される保育行政が行われるよう見守りつつ、微力ではありますが力を注いでいきたいと思ひます。

新規加入園

園名	住所	園長	TEL	FAX
子どものその保育園	ふじみ野市中福岡	高野 和久	049-266-3332	049-293-9514
さくらんぼ保育園	川越市砂新田	高橋ひさの	049-293-6581	049-293-6582
くすのき保育園	さいたま市北区	柿澤 和江	048-796-4901	048-776-9600
汽車ぼっぼ保育園	川口市東川口	渡部 大輔	048-295-7599	048-290-4175
三郷ひだまり保育園	三郷市栄	多田 郁子	048-951-0881	048-951-0882
けやきわかば保育園	富士見市鶴馬	関根衣都美	049-253-8811	049-253-8800
ハーモニーえがお保育園	さいたま市北区	島村よう子	048-782-5500	048-782-5501
風の子第二保育園	川越市松郷	吉田 由子	049-227-7200	049-227-7203



保育園および園児を さまざまなリスクからサポートします

保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。
 (社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
 保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
 各種保険を取り扱っております。

全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害
 保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、
 保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップ
 しています。また、それらを総合的に補償する
 セットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。
 保護者にとっては
 一般に比べてお得な掛金で
 高額の補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」や「園舎の火災保険」などの、
 保険を取り扱っております。
 ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
 TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

